

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「夢に向かって かがやく子」
 ○自ら問題を発見し、主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます。《知》
 ○自分を大切にし、他者を思いやって行動ができる優しさを育てます。《徳》
 ○運動に親しみ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。《体》
 ○夢や目標をもち、まちや社会のために、他者と協働する力を育てます。《公》
 ○人とのつながりを大切に、広い視野でともに生きていく力を育てます。《開》

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>
 <言語能力>
 <心身ともにたくましく生きる力>

具体化した資質・能力

他者を理解する態度・自己を肯定する姿
 思いや考えを伝え合う力
 目標を設定し、それに向かっていく力
 約束やきまりを守る力
 基本的な生活習慣

中期取組目標

子ども一人一人を大切に学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し自信をもって行動する子を育てます。
 ○豊かな感性を育み、明るさと優しさにあふれる温かな学校づくりに努めます。
 ○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。
 ○健康な心身を作るための生活習慣の形成と学校生活の約束を大切に育ち育てます。
 ○家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を生かし、社会に開かれた学校づくり、地域から信頼される学校づくりに努めます。

2 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①校内授業研究等を通して、個々の教師の授業力向上を図り、子ども自身が問題解決し、主体的に考える分かりやすい授業を目指す。 ②毎時間の学習スタイル(めあての明示→振り返り)を築き、学ぶ楽しさや分かる喜びを実感できる授業づくりに努める。
担当	学習委員会

学力向上に関わる本校の状況

学校の学習については、多くの児童が「よくわかる、わかる」と感じている。また、知識を身に付けることや考えを深めることを大切だと考える児童も多いことから、児童の学習意識は比較的高いと考えられる。しかしながら、その学習態度は受け身である児童が多い。高学年になると学習意欲に鈍る児童が増えるためか、その傾向がより顕著になってくる。これは、指導者に問題を与えてもらいそれに答えることを、学習しているのとらえているものと考えられる。そのため、自らが学習課題を見出すような活動では、一部の児童とのやり取りで授業が進むことが多い。つまり、与えられる課題については、積極的に取り組み正解を見つけることに喜びを感じる児童が多く、自ら課題を見つけ正解のない問いに思考をめぐらすことを苦手とする児童が多いと考えられる。

今年度の目標

評価基準である「主体的に学習に関わる態度」に焦点を当て研究を進めることで、児童が主体的に学習に関わり、自ら学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・理科、生活科について重点研究を進める。
 ・職員研修を行い、「主体的に学習に関わる態度」についての共通理解を図る。
 ・研究授業を伴う研究会を行い、授業力の向上を図る。
 ・現時点での児童の資質・能力に関する意識調査を行い、より明確な実態把握に努める。

下半期

3 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①子どもの日常的な学校生活の中で、道徳実践の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要として児童の実態に基づいた道徳科の授業改善を図っていく。 ②実践的、体験的活動を多く取り入れ、多くの人の関わり合いの中で学べる環境を整える。
担当	児童委員会 道徳部

豊かな心に関わる本校の状況



・例年、児童アンケートの中で、「あてはまらない」と答える児童が多いのが「あいさつ」に関する項目である。これを受けて、児童支援専任によるあいさつや声かけ、計画委員会児童によるあいさつ運動を強化し、登校時に自分からあいさつする児童が増えてきた。一方で、一歩学校の外に出ると、地域の方々に対するあいさつに消極的な様子が見られる。

・道徳教育の実践により、相手の立場に立って気持ちを言葉にしたり、よりよい行動について考えたりすることはできた。しかし、実際の場面で行動に移すことはまだ難しい面がある。児童アンケートの中でも、「困った時に相談できる友達がいまいる」という項目に「あてはまらない」と答えた児童が1割を超えていることも気がかりな点である。

・アンケートの結果からも、本校の特色である「花いっぱい学校である」ことを嬉しく思っている児童が多い。引き続き、異学年交流を通して行っているグリーン活動の目的をしっかりとらえ、心の豊かさを育てていきたい。

今年度の目標

多くの人のかかわりの中で、相手の立場に立った行動を実践できるような機会を大切にしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
【道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育
 ・道徳研修会を年間1回以上実施し、道徳の授業づくりについて研修し、指導に生かす。
 ・主体的に自己を見つめ、よりよい生き方を求めようとする児童の育成をめざし、課題意識をしっかりともち、道徳的価値について自分事として考えられるような手立てを工夫する。また、振り返りの時間を十分に確保し、児童間で話を聞いてもらえる喜びを実感できるようにする。
 ・児童の実態を踏まえ、道徳的価値を理解しやすくする資料カードや振り返りカードの充実を図る。

上半期
【自分づくり教育(キャリア教育)】
夢や希望、目標をもてる子どもを育成する自分づくり教育
 ・異学年児童同士が交流する活動を通して、集団の中で役割意識を育むようにする。また、学校が主体となり、あざみ野サポーターズや外部団体と連携して、様々な教育活動に取り組み、社会との関わりに気付くことができるように。

下半期
【道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育
 ・人権週間を中心に、「居心地のよい学校づくり」について考える機会を設けたり、人権キャラバンを実施したりして、命の尊さや思いやりの心などの人権尊重意識を養う。
 ・近隣校同士の小中連携で取り組んでいる「人権標語」作りを通して、誰もが安心して豊かに過ごすことができる学校・地域・町になれるよう、人権尊重意識を高める。

下半期
【自分づくり教育(キャリア教育)】
夢や希望、目標をもてる子どもを育成する自分づくり教育
 ・6年生を中心に、身近な家族や地域の方に職業についての話を聞くことを通じて、その職業のよさや苦勞を肌で感じ取ったり、働く人の生き方や願いに触れたりして、将来の自分に目を向けさせる。

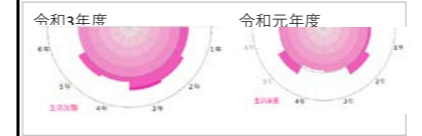
4 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育科での指導や外遊びを通して体力向上に努めていく。 ②特別活動や教科との関連を図り、児童が自らの健康に対して関心を高めていけるようにする。
担当	体育部

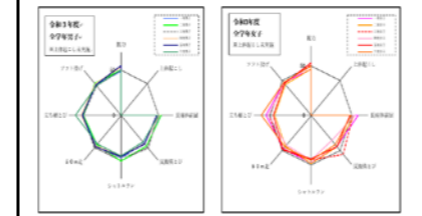
健やかな体に関わる本校の状況

体育健康に関する実態(令和3年度新体力テスト)

【生活意識】
 ・朝食の接種率は市の平均と比較しても高く、ほとんどの学年で9割を超える。
 ・睡眠時間についても8時間以上寝ている児童が1~5年生は7割以上なのだが、6年生のみ5割を切る。
 ・携帯電話、ゲーム機の視聴時間に関しても市平均より少ないが、高学年になるにつれ時間が増加している傾向にある。
 ・過去のデータと比較しても全体的に生活意識は向上しているが、高学年になるにつれて生活リズムが乱れる傾向にある。



・ほとんどの項目が市の平均とほぼ同レベルである。
 ・女子のソフトボール投げと男女の反復横跳びでやや数値が下がる。体づくり運動などで投げる運動や細やかな動きを高める運動を多く取り入れていく。



今年度の目標

心身の健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
【体育安全研修】
 子ども自ら課題を把握し、めあてをもって安全に前向きに学習できるように、教師が運動の特性を踏まえて指導を展開できるようにする。

上半期
【体力アップ作戦】
 運動委員会による体力向上の取組や運動に親しむ機会の確保(長縄記録会等:2カ月に1回ほどのペースで継続して行う)

上半期
【学校保健委員会】
 生活習慣に関するテーマを設定し、各学級が実践的に取り組めるようにする。

下半期
【残食削減プログラム】
 健康委員会による「食べて元気にあざみっ子」をスローガンにした取組(給食ビンゴなど)

下半期
【学校薬剤師、養護教諭、栄養職員との連携】
 薬物乱用と健康や給食指導などによる自分の現在や未来の生活を見つめ、学んだことを実践できる力を育む保健学習を展開していく。

下半期
【運動会】
 子どもたち一人一人が目標をもって取り組み、体力・健康に関する課題を自ら解決しながら進めていく。